

令和6年度秋のキャンパスビジット実施報告書

文責 実行委員長 医学科2年 川野千凜

1. はじめに

令和6年11月10日（日）、令和6年度秋のキャンパスビジットを開催いたしました。
今回は、場所などの変更はあったものの、基本的な内容は例年通りで行いました。

【開催するにあたって】

このキャンパスビジットは、本学の医学科への進学を考えている方や、医学科に興味を持たれている方を対象にしたものです。通常の大学主体のオープンキャンパスとは異なり、有志の学生からなる実行委員会が先生方や大学からのご協力のもと、自ら考え企画したものです。参加してくださる方に本学の医学部の魅力や、受験に対するモチベーションの向上につながるよう準備を進めてまいりました。

【当日の様子】

まず開会のあいさつといたしまして、本キャンパスビジット実行委員会の顧問をしていただいている泉川先生よりご挨拶をいただきました。

次の学生発表では、1年の中村からは主に大学受験について、2年の城田からは学生生活について説明しました。高校生からもたくさん質問があり、皆さん真剣に聞かれていた様子でした。



写真 1：中村の発表の様子



写真 2：城田の発表の様子

学生発表の後、先生方からお話をいただきました。今回は長崎大学病院消化器内科の田渕真惟子先生と長崎大学病院移植・消化器外科（第二外科）の金高賢悟先生にお願いいたしました。先生方おふたりとも、参加された方々が興味を持ちやすい内容でお話いただき、参加者皆さん楽しんで聞かれていました。



写真 3：田渕先生のご講演の様子



写真 4：金高先生のご講演の様子

午後からは、学内の見学を行いました。今回は坂本キャンパス内で計画停電が行われていたため、見学場所が限られておりましたが、クイズなどを交えながら見学を行ったため、参加された方々には楽しんでいただけたようでした。

最後に実習を行いました。今回は4種類の内容を用意し、参加された方々にすべてを体験していただく形にしました。実習は多くの方から楽しかったという声をいただくことができ、盛り上がっていた様子でした。

2. 各プログラムについて

(1). 在学生講話・先生方からのご講演

最初のプログラムは在学生からの発表と先生方からのご講演でした。

在学生講話では1年の中村と2年の城田から発表をしました。中村からは主に大学受験について、城田からは主に大学生活について話をしました。中村は、参加された方々に向けた教科別の勉強方法などを伝えておりました。参加された方々もやはり、気になるのは受験のことだったようで、かなり多くの質問が寄せられておりました。また、城田は、授業や部活・サークルなどについて面白く、ユーモアあふれる内容で話をしてくれました。参加された方々に問いかけながら話を進めてくれたことで、楽しみながら聞いてくれた様子でした。

先生方からのご講演は長崎大学病院消化器内科の田渕真惟子先生と長崎大学病院移植・消化器外科（第二外科）の金高賢悟先生にお願いいたしました。田渕先生からはワークライフバランスなどについてお話いただきました。ご講演の最後にはグループごとに協力して行う作業なども入れて会場を盛り上げていただきました。金高先生からは医師の役割とはこういった姿勢で勉強や仕事に取り組むのかなど、参加された方々のモチベーションが向上するようなお話をいただきました。

先生方のご講演は参加された方々だけでなく実行委員の大学生にとっても、面白い内

容になっており、会場にいた全員が真剣に聞いておりました。

(2). 学部内見学

午後は約 60 分間の坂本キャンパス見学からスタートしました。当日は、坂本キャンパスで計画停電が実施されており長崎大学生協組合が運営する食堂や売店、図書館などの中に入って見学することはできませんでした。そのため、原爆医学ミュージアムや基礎研究棟を案内しました。解剖室や BSL4 施設も中には入れませんが、近くまで行き、施設の説明を行いました。午後から降り始めた雨の中ではありましたが、スタッフから施設の説明だけでなく、医学部生のリアルな日常生活も話も交えながらであったため参加された方々に大学生活の一端を体感してもらえたのではないかと思います。また、キャンパス見学と同時に、クイズを実施しました。基本的なことからややマイナーなことまで、長崎大学医学部について知ってもらえるよい機会になったと思います。

(3). 実習について

今回の実習の時間では心肺蘇生、腹腔鏡体験、気管挿管、血圧測定の 4 種類を用意し、その各ブースを参加者の皆さんに回っていただく形をとりました。今回の実習は例年とは異なり第 4 講義室での実施となりました。今回は、医療器具の体験を通して参加された方々に楽しんでもらうことをテーマにし、専門的な説明や手技は最小限にとどめ、実際に医療器具に触れてみて、難しさを実感してもらい、医師になった気分になってもらうことを目的にしました。また、ゲーム性を取り入れ、楽しみながら学んでもらえるように工夫しました。

心肺蘇生では、アプリを使って心肺蘇生の評価を数値化し、適切な蘇生法が意外と難しいということを感じてもらいました。また、アプリの機能を使ってレースを行うことで、参加者に楽しんでもらうことができ、盛り上げることができました。

腹腔鏡では、お菓子を鉗子でつまんでもらい、また紙玉をつかみ、運ぶリレー対決を行いました。お菓子などを使うことで楽しみつつも、鉗子の扱いやモニター越しの操作の難しさを体験してもらうことができたと思います。手術の難しさや外科医の凄さなどについて興味を持ってくれた方も多くいました。

気管挿管では、器具を用いて練習を行った後、タイムアタック式のレースを行いました。大学生でも苦戦する難しい操作でしたが、成功した方が多くいてとても盛り上がっていました。

血圧測定では、聴診器を用いた血圧の測定を体験してもらいました。血圧の測定をデジタルなものではなく、聴診器を使って行うことは参加者の皆さんにとって初めての経験であったため、音の聞き分けなどに苦戦する方も見られましたが、皆さん最後には測定することができていました。

今回は競走系の企画を多く取り入れた内容となりました。楽しく体験できるものを中心に実習内容を選び、大学生側の練習もしっかりと確保でき、当日は大変盛り上がりを見せたのではないかと思います。シミュレーション室が使えなかったことは残念でしたが、その分移動時間を短縮でき、特に問題はなかったと思います。反省点としては、直前まで内容の変更があったことが挙げられると思います。今回は準備する機関が短くなってしまったので、次回以降は余裕をもって準備できるようにしていきたいと思います。

3. さいごに

今回、企画や準備が遅れてしまい、たくさんの方にご迷惑をおかけしてしまったことを反省しております。しかし、たくさんの方々にご支援いただいたおかげで今回も無事に遂行することができました。また、参加された方々に楽しんでもらうことができたと感じており、少しでも医学部を目指す方のお役に立つことができたのなら幸いです。今後も楽しんでいただけるような企画、ためになる内容を考え、実行してまいりたいと思います。

最後になりましたが、参加してくださった皆様、開催にあたりご尽力いただきました大学関係者の皆様、本当にありがとうございました。特に、ご講演いただきました田淵先生、金高先生、機器体験に関して様々ご指導、ご協力いただきました大学病院シミュレーションセンター中山先生に心より御礼申し上げます。実行委員の至らぬ点が多く、ご迷惑をおかけしましたことも多くありましたが、皆様のご協力のおかげで無事に今回のキャンパスビジットを開催することができたことを嬉しく思っております。引き続きキャンパスビジットをよろしく願いいたします。